

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月2日(木) 16:15～17:01

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、健康福祉部長、医療統括監、
防災くらし安心部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：18名、テレビカメラ7台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について（第3例）

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

本県3例目となる新型コロナウイルスの感染者が確認されましたのでお知らせをします。感染者が確認されたのは、60代男性でございまして、新庄市にお住まいの方です。

3月26日木曜日から38度台の発熱があり、29日日曜日まで自宅で静養されておりましたが、症状の改善が見られないため、30日に医療機関を受診し、インフルエンザ検査を実施した結果、陰性でありました。翌31日深夜、肺炎の症状があったため夜間救急を受診し、感染症病床に入院されました。4月1日CT検査の結果、肺炎の所見が見られたため、保健所に相談し、県衛生研究所で実施したPCR検査の結果、陽性と判明したものであります。

現在、感染経路、濃厚接触者の把握を含めた、詳細な調査を実施しているところです。行動歴は現在確認中ですが、参考として、3月17日から20日までの間、東京から帰宅した親族の方が1名いらっしゃったとの情報が確認できております。

今後の対応としましては、しっかりと積極的疫学調査を実施し、感染者と濃厚接触のあった方に対し、健康観察を実施するとともに、万が一、症状が出た場合には、速やかに保健所に連絡いただくよう指導してまいります。

県民の皆様には、何度も申し上げますけれども、不確実な情報に惑わされることなく、冷静に行動していただくとともに、丁寧な手洗いとマスクの着用を含む咳エチケットなどの感染予防にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

1例目は県外の方でしたけれども、2例目、3例目は県内在住者とのことであり、県民の皆様を守るために、感染原因の特定を早急に進めることが重要だと考えております。まずは保健所を中心に、濃厚接触者や感染経路などの調査をしっかりと行うとともに、感染拡大防止に万全を期してまいります。診療や検査、感染者を受け入れるための病床の確保などの医療体制を整備しているところです。

大変な難局でありますので、県民の皆様と力を合わせて、感染拡大防止に取り組み、この危機を乗り越えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

県民の皆様には、過剰に反応することなく、冷静に落ち着いた行動をとってくださるよう、改めてお願いいたします。引き続き県外との不要不急の往来を控えていただきたいと思いますし、県外からの参加が見込まれる法要などの行事の内容の再検討、たとえば県外からの方にはご遠慮いただくとかですね、特に感染拡大地域からのというようなところはやはりご注意くださいと、ご留意いただきたいと思います。その内容の再検討をお願いしたいと思っております。それからまた、週末にかけて大人数の集りへの参加を、大人数の集りを開催される場合は規模の縮小をご検討くださるようお願いいたします。県内の専門家の方にお話を伺ったのですけれども、個人的な策策などはよろしいのではないかとということでもあります。それから報道機関の皆様には、患者の方及びご家族の情報の取扱いについては、個人情報保護の観点から、ご配慮をお願いするとともに、施設や医療機関などへの取材はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

共同通信社の木下と申します。この参考情報にあります、発熱症状のある親族の方なのですが、まずこの17日から20日というのは、この方が東京に滞在していた期間をさすのか、それとも発熱をしている期間をさすのか、ちょっと詳しく教えていただきたいのと、あとこの発症した方とこの親族の方がどういった接触具合なのかというのを教えてください。

医療統括監

はい、お答えします。17日に東京から新庄市に、ここがご自宅ですので、17日に新庄のご自宅に戻って20日に東京、勤め先の東京に帰ったということで、自宅に帰宅している途中で具体的には18日の午後あたりから発熱が出始めたという情報、そこまでの情報は確認しておりますけども、はい。以上です。

記者

ごめんなさい、親族の方というのは、新庄に住まわれている方、東京に住まわれている方ですか。

医療統括監

東京でお勤めの方で、ご実家に戻られたということです。

記者

ご実家というのは、この発症者の方の。

医療統括監

発症者の息子さんです。

記者

発症者の息子さんですね。同居ではないが里帰りのような形ですか。

医療統括監

そうです、ええ。

記者

わかりました。ちなみにこの方の年代等はわかりますでしょうか。

医療統括監

詳しい年齢はわかりません。

記者

20代、30代とか、そういったところもわかりませんか。

医療統括監

わかりません。

記者

この方に関しては、PCR検査等実施されているのでしょうか。

医療統括監

まだ受けてないという情報ですので、東京都内の保健所に連絡を取って検査をお願いする予定です。

記者

わかりました。あと、その関連で濃厚接触者とされる方、具体的に何名ほど今のところ把握されていますでしょうか。

医療統括監

同居家族とこの親族と言った息子さん、合わせて9人になります。

記者

感染者の方はお勤め先とかは特にないということによろしいですか。

医療統括監

濃厚接触者、ごめんなさい、本人を除きますので、同居家族と親族、この息子さん合わせて8人が濃厚接触者です。

記者

昨日の例の場合、宿にお勤めだったので、そちらの同僚の方とかも含まれていましたけれども、この60代の方は無職の方ということによろしいのでしょうか。

医療統括監

そうです。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの後藤と申します。よろしくお願ひいたします。先ほどの会議で男性のほうが重症が見込まれるということで、あと集中治療室に入っているということだったのですが、現在の容態とですね、まず重症の程度と言いますか、この現状についてお聞かせください。

医療統括監

はい。今日、お昼過ぎの主治医からの連絡によりますと、ちょうどお昼頃に集中治療室に移られてということで、両側の肺炎が少し重症の状態だということで、集中治療室で治療を開始しているという状況です。

記者

重症の状態で今、集中治療室に入って治療を受けているという認識でよろしいですか。

医療統括監

そうです。そういう重症化が見込まれる、重症化する恐れがあるということで集中治療ができる感染症指定医療機関が望ましいということで、転院を昨日の深夜、救急で搬送で転院したということです。

記者

読売新聞の松本と申します。よろしくお願ひします。感染者の方のご家族についてお尋ねしたいのですが、ご家族の年代というのはそれぞれ性別等わかりますでしょうか。

医療統括監

これ、厚労省の公表基準で人数はお話しましたが、詳しい家族構成は特に、この家族構成人数が多いので、どういう人がどうとやると家族特定できる可能性が大ですので、ここでは差し控えさせてもらいたいと思います。

記者

昨日、上山の例だと、だいたい何というのがありましたけど。

医療統括監

ちょっと私言い過ぎてしまったと思っております。

記者

ああ、そうですか。すいません、ご家族の中にですね、幼稚園児の方ですとか介護施設にお勤めの方というのはいらっしゃいますでしょうか。

医療統括監

はい、今調査中ですけれども、そういった方もおられるということで、念のために濃厚接触者のPCR検査を行って検査結果が出るまでは、自宅待機で勤めにと外出不いようにとということで対応をとっております。

記者

わかりました。そういった方というのは園児ですか。それとも介護施設の従事者ですか。

医療統括監

ここではまだPCR検査とかの結果が今からですので、いろんなことで噂とかいろんなこととなっているのかもしれませんが、差し控えさせてもらいたいと思います。

記者

じゃあ、誰かしら自宅待機をされている方がいらっしゃると。

医療統括監

家族全員。

記者

家族全員、あ、家族が自宅待機。

医療統括監

濃厚接触者、家族全員もう自宅待機で、全員PCR検査を行いますので。

記者

すいません、ちょっとその職場の方が全員自宅待機と、すいません、聞こえたので、ありがとうございます。

記者

山形新聞の佐藤と申します。よろしく申し上げます。30日の医療機関を受診というところと、31日に深夜肺炎症状で医療機関の夜間診療受診、この医療機関は、イコールという

か、一緒のものではないのでしょうか。

医療統括監

同じ医療機関です。

記者

同じ医療機関ですか。

医療統括監

日中、30日の日中、1回受診したのですが、良くならず症状が悪化したということで31日の深夜に受診して日付が変わって、4月1日の日付に変わってからということで、PCR検査、こういうふうになった。

記者

それで、その4月1日ですね、検体を採取して衛生研究所でPCR検査の結果、陽性と判明したのはだいたいいつぐらいの時間帯なのでしょうか。

医療統括監

5時頃ですかね。

記者

5時頃ですか。

医療統括監

はい。

記者

だとしますと、これ昨日の段階の5時頃のお話だとすれば、昨日の段階で公表すべきものではないのかなというふうに思うのですが。

医療統括監

PCR陽性の情報だけで、本人も重症で話聞けませんし、全くいろんな情報がない中ですので、ある程度情報が揃ってから発表したほうが、ということがあります。

記者

だと、昨日の段階ではこの男性からお話はお聞きできていないということ。

医療統括監

全くできないです。

記者

今日、お話はお聞きできたということですか。

医療統括監

いや、もうできないです。家族からの情報だけです。

記者

だとすれば状況的にはどうなんですかね。

医療統括監

家族からの情報は、受診の状況とか、それも一部錯綜していて、訂正したものもありますけれども、はい。今の現在はもちろんお話できる状態ではありませんので。

記者

たとえば今後、重症化する方とかもしあった場合とか、想定になりますけれども、県民への速やかな情報提供という点で言えば、どういった判断というのが難しい部分あると思いますけれども、どのように考えていますでしょうか。

医療統括監

迅速に発表しなければいけない事例であれば、もちろんその通りしたいと思いますけれども、今後です、PCR検査がおそらく、午前中に搬入されたものは、今言ったように5時頃とか6時頃に検査結果わかりますけれども、その段階でも検査結果だけしかわからなくて、その結果が感染者患者さんご本人にどのように告知されているとか、ご本人に告知される前にマスコミ発表ということは、もちろんできませんし、そういう状況もありますので、あと深夜に10時11時にわかった時はもちろん、そんな時間に患者さんに告知説明というのは一般的ではありませんので、そういうことを考えると、この感染症の場合はやはり発表が翌日にならざるを得ないことが多いのではないかと想定していますが、第一報として速やかに出したほうが良い事例ということであれば検討したいと思います。

記者

ありがとうございます。

記者

朝日新聞の上月です。このちょっと、参考の親族のところで確認なのですが、発熱があったのは18日からということで、新庄にいた間ということですがけれども、その後治ったということなのでしょうかね。

医療統括監

家族からの情報では、東京都内に戻ってから一般のクリニックに受診したようだということですがけれども、現在治っているかどうかわかりませんが、症状軽快したとしても検査をするという方針でおります。

記者

発熱があるまま東京に戻ったということですかね。

医療統括監

そうですね。19日はずっと家で寝ていたということですので。

記者

この方は新庄にいる間は医療機関は受診していないと。

医療統括監

していません。

記者

わかりました。あと、今回は本人にはまだ告知ができていないということですか。

医療統括監

本人はどのくらい理解しているかですけれども、家族には告知していますけれども。

記者

お医者さんのほうから本人には伝えては。

医療統括監

本人にも病院移る時、意識がなかったわけじゃないので、意識はあった方ですのでご本人にも説明して新庄のほうから村山地域に転院してきたということです。

記者

直近の情報では意識もなくなっている容態だと。

医療統括監

いや、集中治療室で、人工呼吸器管理で鎮静していますので。

記者

意識はあるということ。

医療統括監

意識というか、鎮静状態ですので、会話とかは普通にできないという状態。

記者

重症というのは、具体的にはなんか、どういう状況のことを表しているのでしょうか。

医療統括監

通常酸素を使っても血液の酸素飽和度が高くなるとか、あと両側の肺炎が片側とか一部くらいですと、軽症の肺炎程度ですと軽症なのですが、両側に肺炎が及んでいるとかある程度酸素を、自発呼吸の中で酸素を使っても血液の酸素濃度は上がってこないとか、そういった状況の時には重症ということで、両側の肺炎やそういう、ということで、人工呼吸器が必要な場合にも重症という、そういうことです。

記者

今回もそういう事例に当たると。

医療統括監

そうですね。その先は重篤ということで、いろんな呼吸不全だとかということで、そういう状態ではないですけれども、重症の状態で懸命な治療を始めているということです。

記者

わかりました。あと、この親族、東京に帰った方は今日中にPCR検査を実施するのでしょうかね。

医療統括監

今日中にはできないのじゃないかと思いますが、都内の、この方が東京都内に住んでいる居住地を管轄する保健所と連絡を取ってお願いするということです。なるべく早くやりたいと。

記者

この親族、発熱があるということですが、この新庄の60代男性の陽性の感染との関係についてはどのように評価していますか。

医療統括監

はい。この方、60代の今回の3例目の方は、海外だとか感染拡大地域への訪問とかはしていない人なので、おそらく状況からすればこの親族の方が、もし検査をして陽性であればですが、この方が東京都内での感染連鎖の中のお一人として巻き込まれて、そのまま新庄に戻ってきて感染を繋げてしまったということで、この加害者被害者というのではなくて、一連の感染連鎖の中のお一人が新庄に移動してきたと、そういうことでの感染経路を推定しているところです。検査をしてみないとわかりませんが。

記者

今おっしゃった今回の感染者に関して、海外、感染拡大地域に行っていないというのは、直近、いつの話ですか。

医療統括監

1か月は行っていません。

記者

だと、この親族の新庄に滞在している間の行動について何か、自宅というか実家には帰っていたということですが、それ以外、外出等々。

医療統括監

それは調査中です。特に19日は寝ていたということですが、具合悪くてですね。18日の発熱前は調査中です。

記者

新幹線で新庄までいらっしゃったと。

医療統括監

新幹線で新庄に来られて新幹線で帰られたということで、もし陽性であれば帰りの新幹線の詳しい状況は、調査をしなければいけないということで考えております。

記者

ありがとうございます。

記者

男性は東京からは、親族が先ほど、男性を入れると9人で濃厚接触者8人ということであったのですが、そのうち男性は東京から1人で来られているという理解でよろしいでしょうか。

医療統括監

そうです。お一人です。

記者

ということは東京のほうにPCR検査を依頼したのはその1人ということで、ほかの7人の方は県内のほうで今後随時やっていくという。

医療統括監

はい。県内で。

記者

ありがとうございます。

記者

度々すみません。読売新聞の松本です。男性の症状と経過のところでお尋ねしたいことがあります。26日に発熱があったのは、これは午前中、午後、というのわかりますか。

医療統括監

ちょっと担当でもわからないということです。

記者

わかりました。ということはその後の30日の月曜日の医療機関を受診、先ほど日中とありましたが、これも午前中か午後かというのは。

医療統括監

午後からです。

記者

午後からですね。ではその日付が変わって深夜に夜間救急を受診したということ。

医療統括監

はい、そうです。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

TUY鈴木です。2つ伺いたいのですが、今日私たちの取材で、新庄市内で朝から複数の保育施設で臨時休園となっていて、地域の住民に不安が広がっているということを知りました。今回の60代の男性と関連があるのか、どうなのでしょう。

医療統括監

はい、あると思います。濃厚接触者を自宅待機にしていますので、その影響で保育園のほうで判断したのではないかと思います。

記者

産経新聞の柏崎といいます。ちょっと細かいことで恐縮なのですが、4月1日、昨日ですね、CT検査というのは昨日の人と同じように胸部CTスキャンということをして、それで両側というのは肺が2つありますからそこにウイルス性肺炎ということの症状がみられたということによろしいですか。

医療統括監

そうです。

記者

昨日と同じような。

医療統括監

CTスキャンの結果両側の肺に、ウイルス性肺炎特有の画像所見が見られたと。

記者

見られたということですね。

医療統括監

はい。

記者

はい、わかりました。ありがとうございます。

記者

山形新聞の小田と申します。県内に残っていらっしゃる濃厚接触者の方7人かと思えますけれども、PCR検査はもう既に始まっているのでしょうか。

医療統括監

本日予定しております。

記者

これからするというような。

医療統括監

今日全部取れば、本日中に検査結果が判明すると思います。

記者

あとちょっと2例目の方の質問もよろしいですか。

医療統括監

2例目についてはこの後、資料をお配りして、ご説明を予定しております。

記者

じゃあその時にまたお聞きします。

記者

河北新報の岩田です。30日の受診した医療機関、これは新庄市内でいいですかね。

医療統括監

30と31日は同じ医療機関です。

記者

新庄市内の病院。

医療統括監

新庄市内です。

記者

4日、38度台の熱が続いていて、当時30日の時はインフルエンザも陰性で、それからCTだとかPCRをやろうかとそういう話にはなっていたということなのですかね。

医療統括監

30日はならなかったということですね。

記者

そこまでは至らなかったと。

医療統括監

はい。

記者

まあ様子を見ようかというような。

医療統括監

どこにも行ったことがない人だと、そういうことだと思います。

記者

わかりました。先ほどの質問にちょっと戻るのですが、現場では保育園が休園していたりだとかいう中で、先ほど統括監からもお話がありましたけれど、早めの公表というのが重要なのかなと感じますけれど、昨日知事からもお知らせできるところからということで臨時会見で発表されましたけれど、改めて同じ質問になりますけれど、知事のほうからも今後の公表の方針というか、早めに一報だけでも出すべきと考えているのか、その辺りちょっと教えていただけますか。

知事

そうですね。今まではやはり、情報を出す時には、少しでも情報がいろいろと取れてからというようなことを考えてきました。そこについてはこれからちょっとどういうふうにするか、ちょっと話し合ってみたいと思います。ただ、ただの「確認されました」だけだと逆に不安感だけを煽るようなところもあるかなと思いますので、やはりできる限りその感染者の方のですね、情報を皆さんにお知らせして、県民の皆さんにもお伝えしたほうが、不安感というのはやはり何もわからないほうが募ると思いますので、今まではそのようにして対応してまいりました。今後どうしたらいいのかというのはまたちょっと話し合ってみたいと思います。

記者

そうすると、感染者が出たということだけを伝えるとですね、不安感を煽るのではないかと、そうすると昨日の臨時会見のお話というのは、一報のみの発表だと思いますけれど、あれはどういう。

知事

午前中にですね。あの時、皆さんを前にしてお話している中で数時間後には、その時に調べている情報ですね、お話できるという状況にありましたので、午後にお話させていただきましてということで申し上げました。ですから時間差といいますか、1日も経つというようなことではありませんので、逆に全く何もお知らせしないよりも、今こういうことがあって調べているところで、午後にはお話できると思いますというふうに申し上げました。数時間の間お待ちいただいて、できる限りのことを、情報をですね、お知らせしたという経過でありますので、ちょっとそこはご理解いただければなと思っております。

記者

共同通信の福岡と申します。保育園のほうで休園の判断をされているということは、濃厚接触者の中に保育園児がいるということで間違いはないですか。

医療統括監

そうです。

記者

わかりました。

医療統括監

我々そこまで強くは、もちろん濃厚接触者でまだ何も、園児が感染してとか何とかという状況ではないのですけれども、恐らく安全を見た対応で、検査結果が出るまではということに対応しているのではないかと思います。

記者

それはお一人ですか。

医療統括監

人数はちょっと。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

毎日新聞の的野です。症状の経過の部分で、これまで県としては電話でまず保健所のほうに相談して受診をするようにということ呼びかけてきたかと思うのですが、今回この状況だと30日に医療機関、これはあれですかね、普段から男性が利用している身近な医療機関を受診したというような認識でよろしいですか。

医療統括監

30日も31日と同じなので、この方にとってはこの病院が身近だったのではと思います。

記者

なるほど。その場合ほかの患者さんだったりだとか、院内での感染という可能性はいかがですか。

医療統括監

それはこの医療機関で院内感染対策の組織がありまして、この方が受診した時の対応したドクターは誰でとか看護師は誰でとかどういう処置をして、あと待合室の状況はどうでというのは調査をしまして検討していますけれども、ほかの患者さんとの接触ほとんどないのですけれども、ドクターとか看護師さんで感染防護が十分だったかどうかとかそういったことを再検討して今、何て言うんですか、健康観察が必要な対象者がいないかどうかを検討しているところです。

記者

なるほど。そうすると今の段階では、そういった患者さんを診た看護師だったり医師を濃厚接触者というふうには見ていらっしゃらない段階ですか。

医療統括監

詳しくは病院に聞かないとわかりませんが、病院のほうで綿密に調査して、健康観察対象者がいないかどうかというのを検討しているということです。

記者

はい、わかりました。新型コロナの、そうすると外来のほうはこの方は受けずに、直接感染症指定医療機関に転院したということよろしいですかね。

医療統括監

一応行政検査をするということで、4月1日の2行目に書いていますけれども、肺炎像があるということで、両側の肺炎像で新型コロナが疑われるということで保健所に相談がありまして、保健所関与の下で検体採取をお願いして、検体の搬送等保健所がしますので、保健所が関わっております。

記者

わかりました。すいません、先ほどのこととまたかぶってしまうのですが、30日のインフルエンザの検査の際には、PCR検査というのは同時には行えないものになっているのですか。

医療統括監

いえ、行おうと思えば行えます。

記者

ただその医師の判断でPCR検査は必要ないというような状況だったということですかね。

医療統括監

そうですね。インフルエンザだけやられたということで。

記者

なるほど、わかりました。あと26日から29日はずっと38度台の発熱があったということですかね。すいません、26から29日の。

医療統括監

いや、毎日38度台ではなかったと思いますけれど。

記者

ただ26日に38度台の発熱があつて。

医療統括監

はい。

記者

そこからずっと熱は続いていたということによろしいですか。

医療統括監

そうです。はい。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

日本経済新聞の浅山です。先ほど知事が病床の確保など医療体制を整備していくというお話をされていたのですが、この先どういうペースになるかは、なかなか予測が難しいと思うのですが、今のペースで増えていった場合に、そういう病床がいつ頃パンクしたりとかですね、また、その保健所の体制も、相当皆さん大変だとは思いますが、何かその増員であるとか、体制を、こうやって拡大をいつ頃までにしなければいけないと、何かそういう見通しがおありでしたらお願いします。

知事

はい。その感染者の数と言いますか、状況を見ながらということになるかと思えますけれども、次のフェーズになったらどうなるというようなことは、ちょっと話と言いますか、準備、「準備をする準備」と言いますか、そういう話はしているということです。

実際にそこまでまだ行っていないというような段階で準備はしていないのですけれども、シミュレーションというのはちょっとやっていると聞いております。

記者

前にも公表があったとも思うのですが、現段階では何人まで対応できるのですか。

医療統括監

はい。入院用の病床は県内の保健所が各管内の医療監と協議をしまして、県内で約150床は確保できるということなのですが、その内訳となると、例えば重症の、人工呼吸器をつけなければいけない重症患者さんは何人だとか、そういう細かいところになると、まだ十分何床という細かい数字まではないのですが、人工呼吸器の台数等はみんなわかっているのですが、重症者に対応できる人材、医師等の人材の関係もありますので、その人数については詳しい人数を積算、まだしていないのですが、150床まではということですが。

あと、新型コロナのウイルス感染症の入院医療については、新型のインフルエンザと違いまして、まだ、万が一従事者が感染を受けた場合の予防、内服薬がインフルエンザだとあるのですが、それが無いとか、そういう面で医療従事者の感染リスクを考慮すると、中国とかいろいろなところの経験の報告を見ますと、ある程度患者さんに対応できる医

療機関に初めのうちは集約をして、あまり分散しないで集約をしてやったほうがいいだろうということ、そういうレポートも出ているものですから、ある程度対応できる病院に最初は集めて対応したほうがいいんじゃないかというそういうご意見もあるので、そういった方向で今、実際の運用は考えていきたいということで、具体的に言うと、病院名は、わかると思うのですが、例えば今の県立中央病院が感染症指定医療機関になっていますけれども、あの病院で感染症病床は2床です。第一種感染症指定病床は2床なのですが、その病床がある病棟は、50床の病棟です。

しかも、その50床の病棟というのは9階、一番上の病棟で、その病棟しかありません。エレベーターも専用のエレベーターがあります。そういったところがあって、1人入ったらばということで、今、50床全部新型コロナ専用病棟のような形に転換を図りまして、患者を受けようというそういう体制にシフトしましたので、そこである程度集約をしてやったほうが安全かつ充実した医療ができるだろうということで、もともと9階の病棟に入った患者さんを順次減らしまして、ほかに移ってもらったり、退院したりして減らしまして、そこをゼロにして、感染症、新型コロナ専用を使用するという。

ですから当面、50人まではなるべくそこががんばれるというそういう体制を組んでいるというのが実情です。あまり具体的な病院名は出さないことにしているのですが、イメージしやすいと思ひまして、お話申し上げました。

記者

最近、人工呼吸器の問題が出ていますが、今回の3例目の方はそれをつけていらっしゃるのですか。この集中治療室に入るということは。

医療統括監

集中治療室に入ってから。

記者

実際使われるわけなのですね、この方は。

医療統括監

そうです。使っております。

記者

じゃあこの方が、こういう方がこれから、最初の1例目、2例目はそんなに、症状が安定していたということなのですが、3例目のような方がたくさん出ると、なかなかこれはしんどいということなのですね。

医療統括監

そうですね。集中治療室も独立換気の部屋ですので、そんなにいっぱいそういう患者さんが出ると、対応はやっぱり大変だと思いますので、重症患者が出ないような、ですから高齢者とかそういった方の感染をできるだけ防いでということが重要になってくると思っています。

記者

TUYの鈴木です。感染者の、発症者の息子さんが里帰りで新庄に来ていたということですが、この日程を見る限りは、普通で考えると里帰り、社会人というのは考えづらいのですが、学生というふうに捉えてよろしいでしょうか。

医療統括監

いえ、お勤めの方です。

記者

社会人の方ですか。

医療統括監

はい。

記者

山形テレビの望月です。すみません、冒頭と重なっている質問だったら申し訳ないのですけれども、この息子さんの症状、あった症状は発熱のみですか。

医療統括監

今わかっているのは発熱です。はい。

記者

発熱、体温はどれくらいだったですか。

医療統括監

38度台ということです。

記者

里帰りする前の行動に関しては、これから調べていくということですよ。調査していくという。

医療統括監

本人が感染症だとすれば、その感染経路はどこかというのは、東京都内の保健所に引き継ぎたいと思います。

記者

あともう1つなのですけれども、今回、男性、症状が重症ということですが、重症というところで、どのように見られていますか。何かこの男性が、もともと持っていたと言いますか、そこ、お伺いできるかわからないのですけれども、合併と言いますか、ちょっと教養不足ですみません。お願いします。

医療統括監

この新型コロナウイルスが重症化しやすいと言われる基礎疾患をお持ちの方だということはわかっております。

記者

具体的に言うと。

記者

具体的には、糖尿病などです。

記者

ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの長岡です。よろしく申し上げます。知事に質問なのですが、先ほどの会議で、地域区分が、今、県が感染確認地域に該当しているという認識を示されたのですが、今想定されている対応があるということでしたが、今、現時点で具体的な対策として思い浮かんでいるものがあったら教えてください。

知事

はい。つい数日前までは未発生地域、未確認地域でありましたけれども、1例目が確認され、2例目、3例目となってまいりました。

やはり、最も急ぐべきは、重要なのはその感染経路を究明するということだと思っています。そこを特定して、やはり封じ込める、そこが一番大事なのかなと思っています。

ただ、もしそれがはっきりしない場合にはですね、やはり不要不急の外出は控えていただくというようなことを県民の皆さんにお願いするということになると思います。